

学校と地域の
新しい協働のカたち
〈2022～2024年度〉



唯一無二の 誇り高き学校づくり プロジェクト

高校魅力化ガイドブック



地域×教育で「唯一無二の学び」

今、県立高校では、地域と協働すること、その学校でしか学ぶことのできない教育活動を実践し、高い志と佐賀に誇りを持った骨太でたくましい子どもを育てる「唯一無二の誇り高い学校づくり」に取り組んでいます。

学びのフィールドは地域全体。子どもたちは豊かな地域資源や様々な方々と出会い、多様な価値観に触れます。そうして自分の興味や関心事の幅を広げ、深めていく中で、社会や地域が抱える課題に気付き、その解決に向け、自ら考え、仲間と話し合い、行動する経験を積んでいきます。その経験は、トライ＆エラーも含め、きつと、子どもたちの財産となり、未来を切り開く大きな原動力となっていくことでしよう。

これからも、地域の皆さまから様々な関わりをいただきながら、地域×教育で「唯一無二の学び」を磨き上げ、そこに興味を持った生徒たちを惹きつけ、学校と地域がより活気に満ちたものになるような学校づくりを進めてまいります。



佐賀県教育委員会
かい なおみ
教育長 甲斐 直美

Contents

- 03 佐賀県の取組
- 05 高校魅力化による地方創生
- 06 地域・企業・大学等と協働した学校運営
- 07 地域・企業・大学等と協働した教育プログラム
- 08 実践事例紹介 有田工業高校
- 09 実践事例紹介 唐津青翔高校
- 10 実践事例紹介 鹿島高校
- 11 実践事例紹介 唐津西高校
- 12 学校魅力化アドバイザー・コーディネーターの活躍
- 14 SAGAコラボレーション・スクール(SCS)の活動紹介
- 17 SAGAスマート・ラーニング(SSL)の活動紹介



佐賀県の取組

「唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト」

県立高校の魅力や強みを磨き上げ、学校の魅力を積極的に発信することにより、県内外からの志願者を増加させ、学校の活性化を図るとともに、社会に有為な人材の育成・輩出を目指す取組。

唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクトのはじまり

令和3年度から「唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクト」を開始しました。この取組の背景にあるのは、子どもの数の減少や県外の高校への進学者数の増加による県内高校の生徒数の減少です。これらは、学校の活力や教育活動の維持に大きな影響を与えるものでした。

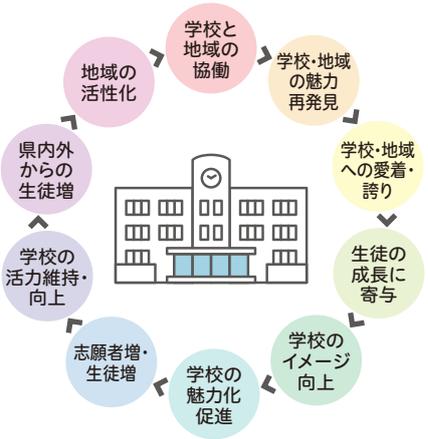
このプロジェクトの目的は？

- ・ 県内外からの志願者の増加
- ・ 県立高校の活性化
- ・ 社会に貢献できる人材の育成・輩出

社会経済情勢が変化し、生徒のニーズも多様化している中、「学校と地域との協働による学校の魅力化・特色化」を進めることにより、志願者の増加、学校の活力維持・向上や有為な人材の育成・輩出、ひいては、地域の活性化を目指し、学校の魅力化・特色化による好循環を生み出すようとしています。

唯一無二の誇り高き学校づくりの基本的な考え方

- 生徒や保護者から選ばれる学校となるためには学校の魅力や強みを徹底的に磨き上げていくことが必要。
- 学校の魅力化は学校と地域との協働が不可欠。学校・県・地域等の協働のもと学校の魅力化の取組を進めていくことが必要。
- 唯一無二の誇り高き学校づくりは、県立高校の魅力を感じた県内外の多くの中学生や保護者が、県立高校に通いたい、通わせたいと思ってもらえるよう、全ての県立高校において取り組む。



<唯一無二の学校づくりによる好循環>

唯一無二の誇り高き学校



唯一無二の誇り高き学校づくりプロジェクトの取組

2021 対面による「高校進学説明会」開催
「令和4(2022)年度入学者選抜」から県外からの入学志願者の取扱いを緩和
有田工業高校「地域みらい留学」による生徒の全国募集開始

2022 「SAGA唯一無二の学校魅力化実践事業」開始
SAGAコロナレシジョン・スクールに9校指定
SAGAスマート・ラーニングに8校指定
オンラインによる「高校進学説明会」開催
県立高校及び県立中学校の通学区域を廃止(※1)

2023 佐賀東高校、唐津西高校、鹿島高校にて「普通科改革」(※2)開始
唐津青翔高校「地域みらい留学」による生徒の全国募集開始
有田工業高校にて「ハウスマスター」(※3)配置開始

2024 「唐津青翔高校TSUNAGARUプロジェクト」(※4)開始
伊万里高校にて「普通科改革」開始

※1 生徒及び保護者の住所の存する市町に制限することなく、自分の進路希望等に応じ、中学生が主体的に学校を選択することができるよう、県立高等学校(普通科)及び県立中学校において設けていた東部学区と西部学区の2つの通学区域(学区)を廃止した。

※2 これまで高等学校の「普通教育を主とする学科」は「普通科」とされていたが、学校教育法施行規則等の改正により、「実務領域に関する学科」や「地域社会に関する学科」等の普通科以外の学科を設置することが可能となった。社会のニーズや生徒の興味・関心等を踏まえた教育の実現を図るため、学科等を見直す学校の取組を推進。

※3 「地域みらい留学」により県外から入学した生徒の日常生活の見守りを行う人材を配置。

※4 県内外から多様な生徒が唐津青翔高校に入学し、「未来」「世界」「地域」とつながりながら学び合うことにより、骨太でたくましい人材を育成するとともに、唐津青翔高校及び玄海町の活性化を図るプロジェクト。

SAGAコラボレーション・スクール(SCS)

有田工業高校、牛津高校、太良高校、白石高校、唐津青翔高校、唐津西高校、神埼高校、高志館高校、鹿島高校(9校)

地域、企業、大学等と協働した学校運営組織による高校の魅力化に取り組む学校

活動例

- 地元企業・大学と協働した課題解決型の探究学習
- 幅広い分野で活躍する卒業生によるキャリア教育の充実
- 地域と協働した商品開発、起業家マインドの育成
- 地域の多様な企業・団体と連携した体験活動
- 県外からの入学生を見守るための受け入れ体制の構築



- 1 学校魅力化アドバイザー(全9校を対象に伴走支援の実施)
- 2 学校魅力化コーディネーター(有田工業高校・牛津高校・太良高校・白石高校・唐津青翔高校の5校に配置)

学校魅力強化委員会

- ▼ 学校長、教職員、生徒、保護者、地域住民、企業、NPO、卒業生、大学生、大学職員、自治体職員等から構成される高校の魅力化のための運営組織。
- ▼ 学校とビジョンを共有しながら、学校や地域等の課題解決や教育活動の充実に向けた企画・運営を行う。
- ▼ SCS指定校(9校)及びSSL指定校のうち伊万里高校、武雄高校(令和6年12月現在)は、学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)を導入。

学校魅力化アドバイザー

学校魅力化の実践データ等を踏まえ、高校の魅力化に向けた助言、アドバイス、支援等を行う。

- 1 SCS指定校へ魅力化のための伴走支援
- 2 PDC Aサイクルの構築支援
- 3 教職員向け研修の企画・運営など



学校魅力化コーディネーター

- 1 学校と地域のコーディネート機能を担う。
- 1 探究学習等の教育課程内の学習機会づくり
- 2 地域住民や地元企業の、高校生に関わる機会づくり
- 3 SNSを活用した情報発信、広報活動
- 4 生徒の県外募集のための説明会でのPR活動



SAGASMAART・ライニング(SSL)

佐賀西高校、伊万里高校、武雄高校、三養基高校、唐津商業高校、鳥栖商業高校、伊万里実業高校、嬉野高校(8校)

学校長のマネジメントに基づき、地域、企業、大学等と連携した新しい時代の教育内容の実践による高校の魅力化に取り組む学校

活動例

- スマート農業、実践型ビジネスへの取組
- 高校を軸とした産学官協働の新しいまちづくり
- 地域の特産品等を用いた商品の企画、開発、販売



高校進学説明会

高校進学を控えた県内外の中学生とその保護者が進学先として県内高校の姿を具体的にイメージできるよう、県内各地で高校進学説明会を開催しています。全体説明の他に事前予約制の個別相談ブースを設け、県内高校の特色や魅力をより分かりやすく伝えていきます。



高校進学説明会(小城会場)の様子

SAGA県立高校進学ナビ

入試情報や県立高校の32校の情報を集約した進学サイト。各高校の紹介動画の掲載、高校進学説明会の個別相談予約、体験入学の申し込み受付、中学生向け「高校の選び方」Q&A等を掲載しています。



SAGA県立高校進学ナビホームページ



◀ SAGA県立高校進学ナビ

高校魅力化による 地方創生



一般財団法人 地域・教育
魅力化プラットフォーム
代表理事 **岩本 悠**

多くの市町村で高校の統廃合が進み、全国の約35%の市町村において、設置されている高校は1校のみになっています。

ほとんどの市町村では、地域の「最髙学府」は高校です。地域唯一の高校がなくなれば、若年層や子育て世帯の地域外の流出が加速し、地域の衰退に歯止めがかけられなくなります。これが、高校の存続が地域の存続につながる所以です。

少子高齢化や人口減少といった社会課題に向き合い、持続可能な地域づくりと人づくりを実現するためには、地方に広がる地域・学校の衰退や消滅の悪循環を、地域の未来をつくる人づくりの好循環へ転換することが必要です。特に、地域からの人材流出の出口となつてしまっている「高校」を魅力的にすることが重要です。

島根県立隠岐島前高等学校では、高校魅力化プロジェクトが始まり、県外生徒の増加・地元中学校からの進学率の向上、生徒の主体性・協働性・探究性などの向上、そして卒業後の地域へのリターン率の向上といった成果につながりました。

今後は、高校に対して、設置者である都道府県だけでなく、各市町村も当事者意識をもち、都道府県と高校、市町村が協働し合うことで新たなビジョンや戦略の共創、持続可能な地域・教育づくりが進められていくべきだと考えます。

私たちは地域の公立高校へ越境留学する「地域みらい留学」に取り組み、2023年度は110校が参画、744人が全国各地へ地域留学をしました。地域留学や魅力ある高校づくりを通して、意志ある若者にあふれる持続可能な地域・社会をつくっていききたいと考えています。

***地域みらい留学とは**：都道府県の枠を越えて、生徒が全国各地の魅力ある公立高校に進学できる仕組み。高校進学を選択肢を広げ、子どもたちに様々な学びの環境を提供するとともに地域の過疎化、人口減少問題の解決も目的としている。



地域みらい留学
ホームページ

高校魅力化の好事例といわれる隠岐島前高校魅力化プロジェクト

島根県立隠岐島前高校では、地元の3つの町村（海士町、西ノ島町、知夫村）と協働して高校魅力化を進めてきました。過疎化や少子化が進む中で、持続可能な学校・地域づくりを目指し、高校と地域・社会をつなぐコーディネーターを配置して、生徒の主体的な探究学習や、社会に開かれた魅力あるカリキュラムを開発・実践しています。全国から生徒が集まり、教育移住も増えるなど島前地域に新たな活力をもたらしています。



高校魅力化プロジェクトの成果

① 県外入学者数の増加
毎年約30名が県外から入学。国際交流にも力を入れており、これまで6か国から海外留学生の受入を実施。

② 地元生の進学率向上
2007年は45%だった地元進学率が2015年には77%に回復。

③ 地域の人口減少の緩和
隠岐島前高校の位置する海士町は、2000年時点での2015年人口推計が2,007名だったところ、実際は2,354名に増加。2024年現在は2,200人超。

隠岐島前高校では、文部科学省の普通科改革の流れを受けて、2023年に魅力的な学校を目指して「地域共創科」を新設しました。丸1日探究学習を行うなど、より地域の特徴を生かしたカリキュラムを学んでいます。

隠岐島前の成果が島根県、そして全国へ広がりを見せています

島根県ではこうした取組を受けて、全県立高校で地域の住民や市町村、企業、社会教育機関、大学等と協働で魅力ある高校づくりを推進しています。この取組を島根県では「高校魅力化」と呼び、地域の特性に合わせた教育プログラムの開発や実施を行っています。この流れは、島根県だけではなく全国へ広がっています。意志ある若者を育てる教育環境づくりが、地域と高校の協働によって取り組まれていきます。教育資源を地域内外から確保し、多様な越境機会を創出することで、魅力ある学校・地域・人づくりが進むことでしょう。

問い合わせ先

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
〒690-0842
島根県松江市東本町2-25-16
みらいBASE2階
☎0852-161-8866



ホームページ

地域・企業・大学等と協働した学校運営

学校の魅力や強みを磨き上げるため、学校魅力強化委員会(学校運営協議会)を設置することで、学校運営に外部(地域・企業・大学等)の視点を取り入れながら教育に関する協働活動を実践しています。また、学校運営協議会を導入することで、これまでの学校評議員によって取り組まれていた「評価」に加え、「熟議」「協働」を通して、学校運営そのものを改善していきます。学校の実態に応じて、適切な方々に委員となっていたり、魅力的な学びにつなげられる外部資源を活用した学校運営を目指します。

※学校運営協議会については、「コミュニティ・スクールのつくり方(学校運営協議会設置の手引き)」に従って運用してください。

学校長のマネジメント

①委員の選定

取り組む際のポイント

★学校と関わりがあり、学校の運営方針に共感し、理解がある方々を選ぶ。

★一つの役割に対して委員の数を3〜5人を目安に選定する。

委員の選定は、学校長の判断で学校の教育目標や活動に合わせて学校運営に必要な支援に関して、活発に

かつ建設的な意見交換ができる委員を毎年選定します。また、委員には学校魅力強化委員会の役割などを説明し、学校の活動を応援してもらいます。(学校運営協議会委員の場合、上限は15人です。)

②役割の明示

取り組む際のポイント

★学校評価、熟議、協働など、委員に期待する役割を明示し、委員に伝える。

★本会の時間は短く、部会の時間を長く取る。

何を期待しているかを伝え、開催の前に、協議の目的も共有します。

また、会が複数の機能を持つような場合は、部会を設置し、各役割の話し合いについては部会で行うようにします。

熟議

③議題の設定

取り組む際のポイント

★事前にどんなことを話し合いたいかを明確にしておく。

★教職員が今後取り組みたいことや困りごとを議題とし、その議題については、事前に委員長に相談しておく。

★一つの会議では一つの協議に絞った方が、時間にゆとりが生まれ、話し合いが深まりやすい。

★熟議したことを、段階ごとに整理し、「誰が」「いつまで」「何をするか」を明確にする。

議題は様々で、「学校が地域に貢献できることは？」など大きめの話題から、「地域でのボランティア活動を進めるには？」など特定のテーマまであります。明確に「〇〇について話し合いたい」という議題を示すことが大切です。

④ワークショップ

取り組む際のポイント

★ワークショップの結果をどのように活用するのか(決定事項・検討事項・参考資料)など、利用方法を予め明示しておく。

★事前に進行役を定め、グループ分けを行うことで、円滑に運営する。

話しやすい場をつくるためにワークショップを取り入れます。お互いに安心安全な状態で話し合いができるような環境を整えます。

1グループ(班)3〜5人程度だと、話しやすくなります。

協働

⑤校内での検討

取り組む際のポイント

★スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づき、何のために地域との協働を進めるのかを明示する。

★校内で検討した結果については、学校魅力強化委員会等を通じて委員へフィードバックする。

熟議に基づいて協働を進めるために、校内体制を構築します。

協働活動を授業や課外活動に位

置付ける際には、校務分掌に担当者を配置します。学年をまたいだ教育プログラムとして取り組む場合には学年団を横断した「連携チーム」などを立ち上げます。取組が大きくなってくると、職員会議や運営委員会に諮ることも必要になります。

⑥生徒の巻き込み

取り組む際のポイント

★まずは少人数でも関心のある生徒たちに声をかけていく。

★教育課程内外の教育活動に位置付けて、教職員が声をかけやすい環境を整える。

★参加した生徒たちの声を集めて、教職員や地域の方々へ、協働活動の価値を伝えていく。

生徒の主體的な活動を導き、多くの生徒を巻き込んでいきます。できる限り探究するテーマを幅広く設け、生徒たち自身が取り組む活動を選択できる状態にすると、生徒たちの主体性を伸ばすことが出来ます。

学校魅力強化委員会

マネジメント

- ①委員の選定
- ②役割の明示



熟議

- ③議題の設定
- ④ワークショップ

協働

- ⑤校内での検討
- ⑥生徒の巻き込み

地域・企業・ 大学等と協働した 教育プログラム

スクール・ミッションやスクール・ポリシーに基づいた教育課程を編成し、学校や地域の特色を生かした教育プログラムや特色ある授業を実践することで学校の魅力を高めます。

地域との多様な協働活動

変化の激しい社会を生きるための必要な資質・能力を身に付けるため、「社会に開かれた教育課程」を実現していくには、地域と学校の協働活動を進めていく必要があります。

① 活動の精選

取り組む際のポイント

★スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づき、地域等との協働に関するテーマを定める。

★これまでの取組の延長線上でもできることを考える。(必ずしも新たな取組でなくてもよい。)

★地域の方々の活動テーマに合わせて、活動内容を調整していく。

★これまでに関わってもらった地域の方々の意見を聞いてみる。

学校の課題に応じた活動を選びます。

活動には探究学習、専門的な技術習得、キャリア教育の推進、進路指導の支援などが挙げられます。

② 連携先の確保

取り組む際のポイント

★コーディネーター役を担ってくれる地域の方を探してみる。
時には地域の行事等にも参加し、ネットワークを広げる。

これまでに連携してきた方々や自治体職員の方々は、地域の団体や人材に精通しており、幅広いネットワークを有しています。活動の目的や地域の方へのメリットを意識しながら相談してみると、様々な方を紹介してもらえる可能性があります。

継続的な活動

地域との協働活動を魅力ある教育プログラムとして実践するには、これらの活動を「継続的な活動」として教育課程内外に位置付けていく必要があります。積み上げてきた活動を揺るぎないものとするために、計画的な活動を意識するとともに、生徒の学びにつながっているかを確かめるために、成果指標を設定します。

③ 目的の共有

取り組む際のポイント

★生徒に対しても、身に付けてほしい力や資質・能力についてガイダンスを実施する。

協力者と「学校としての目的」を共有し、地域側の想いや背景をヒアリングし、相互理解した上で、事業計画を作るようにします。お互いに共通の目的を対話しながら作り上げることが大切です。

④ 計画の策定

取り組む際のポイント

★活動が継続されるように、年度内に次年度の計画を立てる。
★引き継ぎやすいように、活動の目的や成果指標についての資料を残しておく。

★活動の目的や成果指標については、教職員だけでなく、関わる地域の方々とも共有しながら作る。

スクール・ポリシーに基づいて、地域との協働を通じてどんな資質・能力を育みたいのかを検討する必要があります。その資質・能力を、学校独自のアンケートやSCS指定校で使用している「高校魅力化評価システム」などを活用しながら測定していきます。

コーディネーター機能

学校と地域、それぞれの立場を理解しながら、両者の利害調整をおこなったり、リソースが不足する場合は新たな関係者をつなぎ直すことができる「コーディネーター機能」を有する人材が必要です。魅力ある教育プログラムの実現に向けて、協働活動を円滑に進めることができます。

⑤ 窓口の設置

取り組む際のポイント

★まずは地域の方々との連絡の窓口を一元化していく。

★活動の実施に向けて、細かな調整等が発生するので、連絡方法や連絡が取りやすい時間帯などについてすり合わせておく。

継続的な活動

- ③ 目的の共有
- ④ 計画の策定

地域との多様な協働活動

- ① 活動の精選
- ② 連携先の確保



コーディネート機能

- ⑤ 窓口の設置
- ⑥ 報告の実施

魅力ある 教育プログラム

★実際に活動に同行する教職員と窓口となる教職員は同じでなくともよい。

担当者を明示します。学校として地域との協働活動に取り組む際は、その目的に沿った担当者を配置した方が協働がスムーズに進む時があります。

⑥ 報告の実施

取り組む際のポイント

★生徒のアイデアや企画を地域の方々に提案する機会を設ける。

★協働活動が進んでいった際は、生徒たちと地域の方々での振り返りの場を設定する。

振り返りの場を設定します。探究学習の場合は、「発表会」などを連携・協働してくれていた地域の方々に観覧していただき、協働活動がどのような形で生徒の学びにつながったかを知っていただくことが大切です。

全国から意志ある生徒を受け入れる仕組みづくり

～県・町・地域の協働による充実した学びの実現～

全国的にも特色ある学科を有する有田工業高校には、以前から県外からの生徒を受け入れる土壌がありました。そこに、令和3年度から「地域みらい留学」に参画したことを機に、受け入れ体制が充実し、全国からの生徒の入学が増えています。全国から入学した生徒の意欲あふれる姿は、他の生徒や町にも良い影響を与えています。



ばば みつひろ
馬場 光弘 校長

全国からの留學生が増えたことによる好影響

令和3年度に有田町、佐賀県教育委員会、そして有田工業高校の三者で協定を結び、全国から生徒を受け入れる「地域みらい留学」に参画。現在はこの制度を活用して全国から10人の生徒（以下、留學生）が学んでいます。非常に前向きな留學生が多く、授業や学校行事にも積極的に取り組み、コンテストで入賞するなどの活躍ぶりです。ほとんどの留學生が一人暮らしをしており、自立した生活を送りながら、学業や部活動にも懸命に取り組むその姿に他の生徒も刺激を受けているようです。



陶芸交流授業

チームで取り組む広報活動

留學生の募集には主幹教諭とコーディネーター、さらに各科の教職員が1つのチームとなり対応しています。オンライン説明会で、学校行事や授業内容、部活動の実績などを紹介していますが、たまに現役の留學生が登場してくれる



オンライン説明会をチームで運営・配信

と反響が大きいですね。

オープンスクールも開催し、学校の授業を体験してもらおうとともに、有田町の協力のもと有田町でのリアルな暮らしを伝え、入学後の学校や町での生活イメージを持っていただくようにしています。また普段の学校の様子を広く周知するため、ホームページやSNSによる情報発信にも力を入れています。

ハウスマスターの配置と町による支援で留學生を支える

学校が留學生を受け入れる上で一番の不安は、急な体調不良です。誰が看病するのか、異変があつたら誰が様子を見に行くのかなど、留學生の数が増えるほど心配が募ります。そこで、留學生の日々の見守りや体調不良時の対応をするハウスマスターを令和5年度に県教育委員会が配置しました。また、保護者にとっては日々の生活費も気になるころだと思えますが、そこは有田町から生活費の一部を支援（生活支援金の支給）いただいています。



地域の方と地域みらい留學生で伝統食を味わう

「有田町へ来てよかった」「そう思ってもらえるように」

学校魅力強化委員会の委員をはじめとした地域の方々は、留學生を見守り、応援してくれる大切な存在です。例えば、有田町での思い出となるようなイベント企画や地域の伝統食を振る舞ってくださる有志団体に加え、寄付して思いを寄せてくださる方もいます。

留學生は地域のイベントや清掃活動等に積極的に参加し、地域の方と交流を深めることで、地域への愛着を抱ききつかけにもなっているようです。学校は留學生の様子を含め、学校の活動をお知らせする新聞「ARKOコミュニティスクール通信」を作成し、回覧板で各家庭に学校の魅力を伝えていきます。

四季折々に変化する美しい自然と400年に及ぶ有田焼の歴史、伝統ある町並みを持つ有田町を第二の故郷のように思い、関わ

りを持ってくれる生徒が増える嬉しいですね。

改革ポイント！

- 1 特色ある学科を魅力に全国募集に挑戦
- 2 チームで取り組む広報活動
- 3 県・町・地域の協働により実現出来た地域みらい留學生支援
- 4 地域の方への情報発信は直接会って伝えることも大切



YouTube



Instagram

地域の支え /

特定非営利活動法人灯す屋
佐々木 元康 さん

有工で学びたい！という前向きな高校生たちに、少しでも「有田っていいな」「来てよかったな」と思ってもらえたらとても嬉しいですね。高校や高校生と関わる時、この仕組みがもっと良くなることと、長く続くためにはどうすればいいか、ということを大事にするようにしています。留學生たちがもっと多くの町の人たちと接する機会を増やせれば、お互いの満足度がさらに上がっていくと思います。



ひらやま ともひろ
平山 智浩 校長

学校魅力化と地域魅力化の両立へ ～持続可能な協働体制「コンソーシアム」の設立へ～

高校の魅力を高めるために「未来」・「世界」・「地域」とつながる「唐津青翔高校 TSUNAGARUプロジェクト」に取り組んでいます。生徒の全国募集をきっかけに玄海町や地域の企業・団体等との協働が始まり、高校存続のため、玄海町の主導により「コンソーシアム」の立ち上げに取り組んでいます。

きっかけは高校存続への危機感

本校の課題は、地元からの志願者が少なく、定員割れが続いていることです。そこで、特色あるカリキュラムをさらに磨き上げ、海に近い素晴らしい環境を生かして学校の魅力・活カアップにつなげていくため、生徒の全国募集（地域みらい留学への参画）に踏み切りました。玄海町に話を持ちかけたところ、高校生は町の大きな資源の一つ。町の魅力として高校の存在は欠かせない、と志を同じくしていただき、町との協働が始まりました。

今では、町による学校のPR動画の制作や町の広報誌への学校活動の掲載など、町からの支援が増えました。また、豊かな自然に囲まれた本校の魅力を効果的に発信するため、SNSを活用した情報発信に力を入れてきたところ、令和6年度に待望の地域みらい留学生が入学。これをきっかけに町の皆さんに「全国からも選ばれる学校なんだ」と思っていたら、今後地元からの生徒も増えることを期待しています。

「唐津青翔高校 TSUNAGARUプロジェクト」始動

学校の魅力をさらに磨き上げるため、令和6年度から「唐津青翔高校 TSUNAGARUプロジェクト」に取り組んでいます。具体的には、「未来」「世界」そして「地域」とつながることを軸

として、プログラミングやeスポーツ、国際交流の推進、地域資源を活用した教育の実践等、令和8年度からの実施に向けて、「DX活用」と「リアル追及」をキーワードに特別教室の一部をリノベーションし、最先端の学びや地域とつながる学びをより一層充実させていきます。カリキュラムも一部見直ししました。



韓国の高校とオンライン交流

町の未来を描くコンソーシアム

「玄海町の良さを発信する」という視点から、町が主導して「コンソーシアム」の設立を進めています。「コンソーシアム」には複数の分科会が設けられ、いずれも本校を広く支援・応援いただける内容であり、心強い限りです。

「唐津青翔高校 TSUNAGARUプロジェクト」では、校舎のリノベーションに加え、寮の機能を備えた交流拠点の整備に向けた検討も行っています。「地域の子どもから大人まで学び合える場」にできるよう、学校と地域の垣根を低くし、高校生と地域の方との交流や学び合いを促進したいと考えています。「コンソーシアム」で学校の未来・町の未



コンソーシアム設立に向けた玄海町・学校・地域の企業・団体等とのミーティング

来を共に描き、学校と地域の活性化に取り組みすることで、地域に貢献できる人材の育成を目指しています。※「コンソーシアム」とは目的達成のために町や高校・地域団体などが力を合わせる協働体のことを指します。

教職員の意識醸成のための仕掛けづくり

地域との協働が増えるにつれ、教職員の働き方やモチベーションに差が出てくるようになりましました。そこで今年度から、全職員を系列の担当として割り振り、休日のイベント等に参加する場合は交替で生徒を引率する等の工夫をして、一度は地域活動を経験してもらえようになりました。その結果、「地域の方と交流できてよかった」「充実した有意義な時間になった」などの声が聞かれ、地域活動に関心をもって参加する教職員が増えるなど、協働に対する意識が校内で変わりつつあると感じています。地域との協働に対する意識の醸成を図りながら、取組を継続で

きる体制をつくることが重要だと感じています。

改革ポイント！

- 1 学校魅力化に向けて遠慮せず高校から動く
- 2 地域側に高校生の活動の受け皿をつくる
- 3 協働の教育効果を教職員に実感してもらう



YouTube



Instagram

地域の支え /

玄海町企画商工課
いわした つかさ

岩下 司 さん



高校と協働する中で、生徒の元気とパワフルさに感銘を受けています。「なぜ役場がわざわざ県立の高校を支援するのか」とよく聞かれますが、高校生が地域住民とフラットな関係を築く未来を想像できるんです。高校生への支援は町民にもメリットがあり、彼らには明るい町を作るために地域と積極的に関係築いてほしいと感じています。ただし、学校は教育の場であり、地域での活動が子どもや地域に与える効果を考え、先生方に過度な負担をかけないように意識しながら協働するようにしています。

卒業生と共につくる学校の魅力

～生徒の可能性の扉を開く「旭ヶ岡キャリア塾」構想～

高校に変化をもたらすため、校長自らユニークな活動をしている卒業生に声をかけ、学校魅力強化委員会(学校運営協議会)の委員に招いた鹿島高校。委員会の発案でキャリア教育の取組が大きく進み、様々な分野で活躍している卒業生と気軽に話せる「旭ヶ岡キャリアラボ」が校内に誕生しました。



え ぐち たか ゆき
江口 孝之 校長

あえて学校から踏み込む

「学校魅力強化委員会」とは、「学校と地域の協働を促進する組織」と捉え、積極的な活用のために委員の人選を重要視しました。同高での教え子で、「この人が委員になったら面白いことができそう」という卒業生に声をかけました。快諾してくれた3人が核となって次々に斬新なアイデアが誕生。瞬く間に1・2年生対象の「旭ヶ岡キャリア塾」が実現しました。多様な分野で活躍する卒業生が講師となり、興味のある職業の話聞けるというもので、参加した生徒の「都会でなくても佐賀で夢が実現できることが分かった」と喜ぶ姿が印象に残っています。当日の運営はもちろん、講師集めや事前準備など大変な部分は委員会が、校内の体制づくりや生徒への周知などは学校が行い、双方で役割分担しながら進められた点は非常に良かったと思います。



旭ヶ岡キャリア塾第1部のシンポジウム

教職員とラボメンバーの双方の強みを活かすには

年1回のキャリア塾の開催に加え、卒業生などが生徒の夢さがしについてアドバイスをする「旭ヶ岡キャリアアラボ」を令和6年2月、校内に開設。構想は当初から出ていましたが、外部の方の教室利用や生徒との接触など、ハードルがいくつもあったため、教職員の賛同が得られるよう慎重に進めました。ラボに新規メンバーを迎える際は、必ず職員会議にはかり、教職員の理解を得ています。また、ラボの意義について教職員とラボスタッフとの共通理解もかせません。ラボは、生徒が夢を見付ける手助けをする場所で、実際の進路指導や学習指導は当然教職員の役割となります。



生徒に夢さがしのヒントを与えるキャリアアラボ

学校魅力強化委員会における管理職の役割

キャリア塾やラボを実現できた大きなポイントは、学校側が卒業生に声をかけ、共に熟議を

重ねたことだと思えます。彼らは後輩の力になりたいという熱い思いがあり、非常に協力的です。そのため、委員会では様々な意見が出されますが、明らかに学校として賛同できない場合は、しっかりと「ノー」と伝えており、その役目は校長にあると認識しています。委員会と学校運営の両輪をうまく回すためにも、決定権がある私達管理職が委員会との委員との対話と熟議に重きを置いています。

卒業生の多様なキャリアが生徒の道標に

本校は普通科、商業科、食品調理科を持つため、幅広い分野で活躍する卒業生がいることが強みです。キャリア塾が「点」、ラボを「線」とし、将来的には生徒一人一人にキャリアアドバイザーをつけ、他にはない「面」でのキャリア



旭ヶ岡キャリアアラボミニセミナー

教育を行っていきたいと考えています。これからも卒業生と共に学校の魅力を磨き、生徒の進路実現に向けたキャリア教育を展開していきます。

改革ポイント!

- 1 委員の人選が一番重要
- 2 外部の意見は校内できちんとはかる
- 3 管理職が意志を持って決断する
- 4 卒業生とつながるキャリア教育



ホームページ



YouTube (普通科改革)

地域の支え /

公益財団法人佐賀未来創造基金
やまだ けんいちろう
山田 健一郎 さん



母校である鹿島高校の赤門を久しぶりにくぐり、恩師の先生方と学校や生徒のために、そして地域のために、一緒に何が出来るかを先生方や生徒たちと真剣に話し合い、実践できたことがなにより嬉しかったです!これまで取り組んできたキャリア塾、キャリアアラボ、そしてこれから始まるキャリアアドバイザーなどを継続して行ってほしいです。あくまで外部の人間として、先生や生徒と一緒にできることを無理なく取り組んでいくこと、そして、本音で話し合いながら、役割分担を明確にして一緒に全力で取り組むことが大切だと思います。

体験を学びに発展させ、探究活動で多様な進路実現へ

～地域と連携する普通科改革 生徒の未来を切り拓く学び～

「普通科改革」に舵を切り、令和6年度から探究活動を軸にした学びをスタートさせた唐津西高校。地域・企業・大学等と協働した実践的な教育が始まっています。その基盤となったのは地域とのつながりを深めてきたボランティア部の活動と学校魅力強化委員会(学校運営協議会)の支えでした。



おかもと たかし
岡本 隆 校長

探究活動を軸に新たな魅力を生み出す

特色のある高校が多い唐津市内で、本校を選んでもらうため、「普通科改革」に取り組んでいます。その要となるのは探究活動です。生徒自身が地域や社会の課題を見付けて課題解決型学習を行うというものです。

全校生徒の約2割がボランティア部に所属し、唐津への思いや社会貢献に対する意識が非常に高いのが本校の魅力の1つです。10年にわたるボランティア活動により、地域の皆さんと築き上げた信頼関係が新しく始める探究活動への理解と協力につながっています。

令和6年度から新しい普通科がスタートし、2年生では地域と連携する「地域探究進学コース」と、大学や研究機関と連携する「学際探究進学コース」に分かれ、さらに探究活動を深めています。探究活動で得た主体性や課題解決力などが、生徒の多様な進路の実現に生かされると期待しています。



ネロリの花摘み(化粧品原料)

校務分掌「探究支援部」を立ち上げる



地域の方々によるアドバイス

校長に着任した令和5年4月に普通科改革に取り組むことを決定。本校の探究活動について、導入の経緯を説明し、校内に浸透させるところから始めました。教職員からも戸惑いの声が多かったため、本校のグランドデザインをベースに、「探究活動とは何か」「実際にどんな取組をするのか」など、教職員と対話や目線合わせを積み重ねてようやく動き出しました。

探究活動を行う上で最も大きな課題は、外部機関との連携・調整です。そこで、校務分掌として「探究支援部」を立ち上げ、さらに各学年に「探究支援部」の担当者を配置するなど、校内体制を整えたところ、教職員から情報共有がしやすくなったといった声が上がっています。

学校魅力強化委員会と共に深化する探究活動

本校の探究活動を語る上で欠かせないのが学校魅力強化委員会との関わりです。委員に卒業生

が多く、大変協力的で、各人の人脈を活用いただきました。その結果、多種多様な分野との連携が実現し、さらに、現在は同窓会を軸とした探究活動の支援プラットフォームづくりが、委員会の発案により始動しています。委員と十分な熟議を重ねているからこそ探究活動がより魅力的なものに磨かれていると思います。

地域とつながる探究活動が育む「生徒の学びと成長」

探究活動を進め、生徒が地域とのつながりを持ち始めたことで、学校の雰囲気は以前にも増して良くなり、生徒は自分の考えを人前で話したり、困っている人を見たら声をかけたり、初対面の相手とも積極的に関わっていくなど、少しずつ成長している様子が目に見えてきました。また、探究活動が生徒の興味・関心を喚起することで、生徒は学ぶことの楽しさを認識し、学校へ来ることの楽しさにもつながっているようです。



探究活動の発表会



地域の支え/
特定非営利活動法人WeD
はら ゆういちろう
原 雄一郎 さん

高校と関わる中でやりがいを感じるの、地域の将来を担う母校の後輩たちを支援できることです。NPO法人WeDでの活動が、高校生への支援に役立てられていると思います。普段から高校と関わりがある自分が地域と学校の橋渡しをするときには、先生方の負担を減らせるように意識しています。そうすることで、地域と学校の協働が進んでいると感じます。高校生の頑張りには地域に大きな影響を与えるので、先生方にはさらに地域の力を活用してほしいです。

改革ポイント!

- 1 探究活動を軸に新たな魅力を創造
- 2 改革の要となる「探究支援部」の立ち上げ! 同窓会や学校魅力強化委員会と連携した支援プラットフォームの構築
- 3 地域とのつながりが生徒の学びへ



Instagram



YouTube (普通科改革)

生徒の輝く姿を見た地元の小・中学生が「唐津西高校に行きたい!」と思ってもらえると嬉しいです。

★ コーディネーターの活躍

生徒と地域をつなぎ、探究学習をサポート

白石高校
学校魅力化コーディネーター のみやま みすず 野見山 美鈴さん

生徒の探究のテーマに沿った人や生徒自身が会ってみたい人とのマッチングするのが主な役割です。まずは自分の人脈を広げるために、様々な人とにかく会いにいきました。話をしてみると「高校生とつながりたい」「力を借りたい」と思っている人は意外と多いことが分かったので、次に具体的な関わり方について、先生方と打ち合わせ、授業に組み込むなどを検討しています。

令和5年度は主に商業科2年生の授業に関わりました。地域課題ごとにグループに分かれ、解決策を探究するなかで、生徒が主体的に課題を発見し、発表を行うなど、目覚ましい成長や変化を遂げる姿を間近で見ることができました。生徒の成長を身近で見られるからこそ、感動しましたし、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

コーディネーターとして学校と地域、どちらもWin-Winとなり、お互い無理なく持続できる関係づくりを心がけています。

#探究学習



Instagram

1日のスケジュール

8:15	出勤・朝礼 昇降口であいさつ活動
8:30	担当の先生と授業の打合せ
10:00	地域伴走者とイベントや進捗状況について打合せ(学校外)
12:40	ランチ
13:25	授業に入り、生徒や先生の伴走支援
16:00	地域伴走者に進捗状況報告
16:50	退勤



探究活動の
伴走支援



地域みらい留学生と学校・地域の接点をつくる

有田工業高校
学校魅力化コーディネーター いわず あやこ 岩谷 綾子さん

県内外への高校の魅力発信に加え、入学した地域みらい留学生のサポートをしています。現在本校には10人が東京や広島、鹿児島などから留学しており、ほとんどが一人暮らしをしています。学校の先生方とは異なる視点から、自立して生活するためのサポートを行い、相談しやすいような雰囲気づくりや距離感を大切にしています。

生まれも育ちも有田町である私。地域みらい留学生も含めて県内外の方に有田の歴史や陶磁器のことだけでなく、この地域ならではの伝統や人情を知ってもらうことも、今の私の役割の一つだと考えています。特に、青春時代の貴重な3年間を本校で過ごす地域みらい留学生には、地域の方との触れ合いや交流に加え、“有田ならではの体験”ができる機会を積極的に提供しています。そうした時間の積み重ねにより、地域みらい留学生にとっては“有田が第二の故郷”となり、地域にとっては「若い世代に事業や技術を引き継いでいくために頑張っていこう」などの思いを抱いていただくことにつながるのではないかと感じています。

対面説明会の
ブースセッション

#生徒受入



Instagram

1日のスケジュール

8:15	出勤 職員朝礼
8:30	スケジュール確認・打合せ
9:00	広報活動 (全国募集に向けてのSNS発信)
12:15	ランチ ・地域みらい留学生にお弁当配布 (健康状態確認や連絡事項を伝える)
13:30	各種説明会に向けた準備 ・地域みらい留学チーム会議
16:50	退勤



地域みらい留学生と
町を案内



“私” だからこそできる コーディネーターの仕事を生み出す

唐津青翔高校
学校魅力化コーディネーター きたがわ ももこ 北川 桃子さん

地域みらい留学生の募集に係る情報発信が主な役割です。SNSでは、地域の特徴を盛り込みながら学校の魅力を発信し、また本校での高校生活が疑似体験できるようひと工夫を加えています。また、各種説明会では、地域みらい留学生と一緒にPRを行い、地域みらい留学生のリアルな声を届けたところ、非常に好評でした。

本校は町に一つしかない高校ということもあり、玄海町や地元企業をはじめ、多くの方からの支えがあることを様々な場面で実感しています。特に、地域みらい留学生の住まい探しは、学校の力だけでは難しく、苦労をしました。このことを玄海町や地域の方に相談したところ、「我が家を使っていいよ」など、温かい声を寄せていただき、無事に確保することができました。まさに地域・町・学校の三者が一体となって、地域みらい留学生の受け入れに取り組んでいます。

私が思うコーディネーターの役割とは、三者が密に連携し、同じベクトルを向く関係性を作り出すことだと思います。そのためには、コーディネーター自身が地域や学校のファンになり、積極的に地域に足を運び、“関係性を築くための種まき”が大切だと感じています。

#情報発信

再生回数29万
超えのルールも!



Instagram

1日のスケジュール

8:20	出勤 校門にて挨拶運動
8:30	一日のスケジュール確認
8:45	地域の方との連絡・調整
11:00	広報活動(Instagram更新)
12:00	地域の方とランチミーティング
14:00	オンライン説明会の企画・準備・校内ミーティング
16:00	地域みらい留学生との面談
16:50	退勤



学校魅力化アドバイザー

高校を地域にひらき協働を進めるサポートをしています

かどわき きょうへい
学校魅力化アドバイザー 門脇 享平さん

SCSの9校に対して、学校魅力化の伴走支援を行っています。1・2年目は毎月各校へ訪問し、学校魅力強化委員会の活用やカリキュラム改革、ランドデザインの作成、全国生徒募集等について、学校のさらなる魅力化を進めるとともに、学校を地域にひらくための橋渡し役も担っていました。本事業の最終年度となる3年目は、本事業で取り組んできた各校の自走化を目指して、9校共通のルーブリックの活用などにもチャレンジしています。

また、高校と地域の協働を進めるために、市町との連携も欠かせません。県の学校魅力化アドバイザーとして、学校と行政の協議の場を設け、対話のサポートをしていくことによって、お互いのビジョンを

共有しながら、目的が一致している部分に基づいて、緩やかな協働体制の構築を進めることができたと思います。

地域にひらく、と言った際の「地域」は住民や行政だけではなくありません。今後は、企業、大学、CSOなど、より専門的な社会資源と接続し、さらなる学校魅力化を進めていきたいと考えています。

#伴走支援

会議での
ファシリテーション



生徒へ
活動の説明

生徒の学びの充実と 地域の方々の喜ぶ顔の両立を目指す

牛津高校 なかしま ひろつぐ
学校魅力化コーディネーター 中島 弘次さん

今年の夏、牛津高校「みせるプロジェクト」として、3つの学科それぞれの特色を生かした1日限定のお店「牛高茶屋」がオープン。地域の方を中心に多くの方に来ていただき、大盛況で幕を閉じました。

着任後、人脈づくりのために地域の様々な活動に顔を出し、傾聴と対話を重ね、相談できる関係性を構築していきました。そのような中で、ある会議に参加したところ、地域の活性化を担うキーパーソンと出会い、町の困り感や課題について情報をいただいたことがきっかけとなり、今回のみせるプロジェクトが動き始めました。学校としても、「生徒が校外に出て、地域の方と触れ合うことで、地域課題に気づく機会をもっと増やしたい」と思っていた時期でもあったので、そのつなぎ（コーディネート）ができて嬉しく思っています。

改めて感じたのは、学校の視点に加え、地域の困りごとに対して学校では何ができるかという視点も持つこと。双方にとってメリットがあるつなぎ役として、コーディネーターの調整力が求められると思っています。

#協働体制



Instagram

1日のスケジュール

- 8:25 出勤。朝礼
- 9:20 校外にて地域の方と打合せ
- 12:00 ランチ
- 12:45 先生方と打合せや資料作成
- 16:00 生徒たちと校内菜園の世話
- 16:55 退勤
- 18:00 地域コミュニティに参加
(子ども食堂・お祭り・地域行事
・各実行委員会・協議会等々)

地域の方の想いを受け、生徒の自主性を培う地域連携活動に

太良高校
学校魅力化コーディネーター リュウ イー ファンさん

主な業務は今年度から始めた「HOT Challenge」というボランティア活動の体制づくりです。生徒のコミュニケーション力を高め主体的に動く力を身に付ける機会にしたいというのが目的で、学校としてまずは1年生から導入してみることにしました。

生徒の関心と参加意欲を高めるため、名称を募集したところ、ある生徒が福祉施設の利用者の方からかけられた「君が来てくれてほっとしたよ」という言葉、学校のキャッチフレーズの「HOT School」、さらに生徒も学校もいろいろチャレンジしていきたいという熱い(HOT)想いから「ホットチャレンジ」と名付けることとしました。ボランティア活動ではありませんが、ゲーム感覚で挑戦できるようお気軽・本気・行事の3コースを設けました。本事業には学校魅力強化委員会の方も協力的なので、太良高校ならではのユニークな取組となるよう共に試行錯誤しています。

この地域ならではの、ヒト・モノ・コトをつなぎ、ここでしか体験できない、学べないような活動を学校と地域の架け橋となりながら共に作り上げていく体制を整えるのも、コーディネーターの仕事であり、そこにやりがいを感じています。

#地域連携



YouTube

1日のスケジュール

- 8:30 出勤・朝礼、業務確認
- 9:00 イベント参加者対応(活動日誌の提出のリマインドメモ作成と配布)
- 9:30 広報委員会活動の打合せ
- 10:00 各種事務処理、資料作成
- 12:25 ランチ
- 13:00 学校HP掲載用記事作成・動画の撮影と編集
- 16:00 広報委員会活動参加
- 17:10 退勤

ボランティア活動の
紹介



牛津高校

「地域に開かれた、愛される学校づくりプロジェクト」というテーマで、地域や地元企業との協働した取組を行い、学校の魅力づくりを行っています。

みせるプロジェクト

「みせるプロジェクト」とは牛津高校の各学科が日頃の学習で身に付けた成果や技術の発表の場としてお店を出店するプロジェクトです。今回の出店では、食品調理科は地元企業と協働開発した商品の販売、服飾デザイン科は授業で製作した小物の販売、生活経営科は煎茶の接待を行いました。今回のお客様の反応や運営の反省から、課題を見付け改良を続けることでよりお客様に喜んでいただけるものづくりやサービスの提供を目指していきます。



協働開発した商品の販売

津の里ミュージアム

「津の里ミュージアム」は、牛津町の子どもたち地域ぐるみで様々な体験を提供するために小城市が毎月1回主催しているプログラムです。牛津高校生は運営ボランティアとして地域の大人の方と協働しながら毎回活動しています。7月は牛津高校お楽しみプログラムという事で、本校の3学科の3年生が指導者として、「調理」や「もの作り」など学科の特長を生かしたテーマ子どもたちと楽しく活動しました。



子どもたちと一緒に調理

小中学校での出前授業

地域の小中学校の家庭科の授業に出前授業や授業のサポートを行っています。小学校家庭科の授業では、生活に役立つものの製作（ナップサック）でミシン操作の補助、調理実習（いりどり野菜炒め）では包丁の使い方や、炒め方などの調理のサポートを行いました。回数を重ねるごとに子どもたちとのコミュニケーションも上手にできるようになり、楽しく活動をしています。



6年生の裁縫の授業での縫い方指導

生徒の声

コロナ禍でできなかった煎茶接待を初めて地域の方の前で行いました。うまくできないこともありましたが、お客様から「ありがとう」の感謝の言葉をいただいたことがとても嬉しかったです。



大人の声

放課後子ども教室「津の里ミュージアム」活動(子どもたちと料理や工作をする活動)に高校生がボランティアで手伝いに来てくれています。優しく楽しく指導してくれる高校生は子どもたちに大人気です。

牛津公民館 熊谷さん



YouTube



Instagram

太良高校

地域連携型の体験学習とボランティアの推進によるキャリア教育や、地域行事への積極的な参加を通して、校内外で生徒が活躍できる魅力ある学校にすると同時に、地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

地域と連携した多様な体験学習

有明海について学ぶ「有明海学」、地域の風土や歴史を学ぶ「郷土学習」、地域のスペシャリストから農業について学ぶ「栽培体験・グリーンデザイン」、地域の事業所で毎週1回就業体験をし、地域の産業や働くことについて学ぶ「体験学習」など、本校では地域と連携し、体験的に学べる授業を多く展開しています。地元企業への就職なども含めたキャリア教育につながっており、魅力ある取組の一つになっています。



花の選別を体験している生徒

KAGURAによる地域伝統芸能「川原狂言」の伝承

今年で4年目を迎える神楽の授業では、佐賀神楽団の方による、演目や歴史の授業、楽箏・舞の技術指導をしていただいています。



神楽を披露している様子

生徒の声

HOT Challengeに参加して、地域の方や施設利用者の方との交流をすることで、高校生活では体験できなかったことや考えに触れることができました。また、コミュニケーションをとることが増え、人と接することに積極的になりました。



大人の声

HOT Challengeの参加者は、太良町に多くの魅力があることを実感したり、医療・福祉分野の人材不足といった社会問題に向き合ったりすることができており、このような経験を通して、地域に貢献する人材が育っていると思います。

社会福祉協議会 中村さん



YouTube



Instagram

HOT Challenge

太良町内の福祉施設や病院、観光協会などと協働した地域ボランティア活動を推進しています。活動内容は環境美化や介護補助など多岐にわたりますが、自分のペースで参加できることが魅力です。また、35時間の活動に対して1単位が認定され、1年生では毎週水曜日5、6限目の選択授業の時間にボランティア活動で単位の取得を目指しています。



水曜日のHOT Challenge

白石高校

普通科と商業科の両キャンパスがある杵島郡3町(白石町、大町町、江北町)に関わる様々な魅力や課題を知り、つながりながら、連携・協働した取組を行うことで、主体的に行動する力と課題解決能力の育成を目指しています。

1年生の「総合的な探究の時間」で行っている行事。「防災・減災」や「地域活性化」などのテーマで活躍されている地域の方々を講師として迎え、10分野11講座を開催。両キャンパスの生徒と教職員が、地域の現状と課題について直接レクチャーを受け、活動しながら学びます。

3年間を通して学ぶ「総合的な探究の時間」のベースとして、地域の課題に対する理解を深め、当事者意識を育む取組です。

白高絆フェスタ



体験(竹鉄砲作り)コーナー



「環境分野」について学んでいる様子

地域連携講座

地域の方が伴走者！ 「総合的な探究の時間」

「総合的な探究の時間」では、地域の方々「ホンキの大人先生」に探究活動の伴走者になっていただいています。年間を通して、教室に来ていただいたり、放課後や休日に生徒と共に活動していただいたりして、生徒の学びのサポートをいただいています。



地域の災害対応についての話し合い

生徒の声

私は高校で地域の人と話したり、地域の課題に取り組んだりするうちに、いろんなことに積極的に行動できるようになりました。大町町長の前で自分たちの企画をプレゼンして実行できた時は、大きな達成感が味わえました。



大人の声

白石高校による地域とのコラボレーションは、確実に地域の元気につながっています。地域をフィールドとした高校生の活躍に感謝しています。これからも地域とつながる学びを広げ、地域の未来をつくる人材を育ててほしいと思います。

須古地区地域づくり協議会 江口さん



学校魅力化アドバイザーより グランドデザインとは



生徒や保護者・地域の願いや期待を踏まえ、各学校が自校の目指す学校像や育成したい生徒像を描き、その実現を達成するため、学校教育全体の中でどのような方策を考え、組織的に取り組んでいるかを示した基本構想です。スクール・ミッション、学校教育目標やスクール・ポリシー(3つのポリシー)から構成されています。

各校が、育てたい生徒像に基づいて目指す方向や特色を明確にし、教育活動を体系化するとともに、それを教職員・生徒・保護者を含めた地域社会と共有します。

(島根県>トップ>子育て・教育>教育・学習>高校魅力化>グランドデザイン>グランドデザイン)より一部引用

活用するポイント！

1 生徒の視点で「この学校で何をどのように学び、何ができるようになるか」を描くことが重要です。中学生や保護者が学校を選びやすくなる言葉やデザインを意識しましょう。

2 作成するための議論を教育活動改善のチャンスと捉え、それぞれの教育活動の目的や内容を精選し、見直すきっかけとして活用しましょう。

3 作って終わりとなってしまえば意味がありません。教職員はもちろんのこと、生徒・保護者・地域とも共有しながら教育活動を推進し、そして常にデザインを更新していきましょう。

夢、みつかる ひろがる。 佐賀県立鹿島高等学校 グランドデザイン

目指す生徒像 GRADUATION POLICY このような生徒を育てます

他者を尊重し、誠実で豊かな心と大きな志をもって逞しく未来を切り拓く生徒を育てます。

至誠 何事にも誠実に心を持って取り組む生徒
大志 人々のために自分に役立てることができる、大きな志を持つ行動する生徒
探求 自分なりの問いかけに日々、真摯な態度で向きあう生徒

育てる課程 CURRICULUM POLICY このような教育活動を展開します

普通科 1年次に共通の学びで各教科・科目の基礎を固めます。2年次から進修コースで特色ある学びを深めます。大学進学を目指し、確かな学力を身に付けます。

商業科 共通の学びで知識・教養を身に付けます。専門科目で学びを深めます。進学、就職に向けて、丁寧に学びを積み重ねます。

食品調理科 プログラムに沿って、中・高の調理実習を通して、幅広い知識を身に付けます。就職活動や専門科目の修得で学びを深め、就職活動を支援します。

赤門学舎 学びを支える土壌 -伝統ある新しい学校-

◆地域に開かれた教育機関としての県立高校
◆鹿島郡に根を深める「鹿島」の「プロジェクト」
◆部活動と盛んな文武両道推進型校
◆ソフトボール女子、レスリング、バレー女子、野球

大手門学舎

求める生徒像 ADMISSION POLICY このような皆さんを待っています

わかること、できることをめざす人
大きな目標をもって頑張ることができる人
多くの五人たちと、学校行事、部活動などに、真摯に取り組む人

(佐賀県立鹿島高等学校>HOME>スクール・ミッション/グランドデザイン)より引用▶

神埼高校

総合的な探究の時間を通して、地元神埼の産業・教育・医療福祉機関と連携し、生徒たちの主体的な姿勢を育みながら地域に貢献できる人材育成に取り組んでいます。

かんざきまぢめり

神埼の魅力や課題を調べて、実際に町を歩きながら調査し、地域の人にインタビューをします。分らないことはインターネットを活用して調べる等して、発表用の資料作りにも力を入れています。また、プレゼンテーションの練習を重ね、文化祭では代表生徒が全校生徒に向けて発表し、成果を共有しています。



仁比山神社で説明を受ける様子

檳田の市 & 吉野ケ里マルシェに出店

地域のイベントに毎年参加して、より多くの人に楽しんでもらおうと地域の方と話し合いながら企画運営を行っています。



檳田の市での出店

準備や打ち合わせ、広報活動に携わることで、地域の方の熱い思いや支えがあつてイベントが成り立っていることを改めて実感しています。

生徒の声

小学生との接し方・伝わる話し方・楽しんでもらえる遊びなどについて考え準備をするのは時間がかかったけれど、実践がうまくいったときは嬉しかったです。



大人の声

「お手伝い」ではなく、めいっぱい自分のために経験することが大切。「失敗しないように」ではなく、失敗から学ぶことも多いから「失敗してもいい」ということを子どもたちに伝えていきたいです。

神埼情報館 喜多さん



Instagram

図書館や児童クラブでの交流

教育に興味を持つ生徒たちが、絵本の読み聞かせをしたり、手作りのおもちゃを持って地域の子どもたちと交流します。神埼町の図書館や地元の幼稚園に出かけて、絵本やおもちゃの準備に追われながらも、大きな声でゆっくり説明するなど練習を重ねています。



神埼市立図書館での絵本の読み聞かせ

高志館高校

「地域とともにある学校 ～生徒・職員が誇れる学校、保護者から信頼される学校、地域から必要とされる学校～」をテーマに、地域と連携・協働した取組を推進しています。

イノシシ肉を使った商品開発

害獣であるイノシシの肉を使ったソーセージで、イノシシソーセージパンを開発しています。地域のパン屋さんから技術指導をしていただき、地域の方には試食会でアンケートへの協力をお願いしました。キャラクターパンやホットドッグなどの商品開発を通して、製パン技術が向上し、また、地域の方から直接感想をいただく機会があることで、商品開発への意欲向上に繋がっています。



地域のパン屋さんからの技術指導

小学生対象のミニ門松づくり

ものづくりの楽しさを知ってもらおうと春日公民館と協働で地域の小学生対象のミニ門松づくり教室を行っています。高校生が小学生への説明やサポートのすべてを行い、教えることの難しさを感じながらも、小学生に優しく声をかけながら行うことができました。小学生の楽しそうな笑顔を見ることもでき、参加した生徒全員が講師をしてよかったと答えており、生徒たちの成長に繋がっています。



小学生とのミニ門松づくり

生徒の声

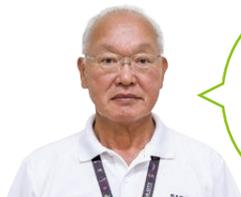
地域の方と関わる機会が多くあり、イノシシソーセージパンを試食していただいた方からの「おいしい。販売されたら絶対にお買いね。」などの言葉はとても嬉しく、私たちの活動に対するやる気に繋がっています。



大人の声

高志館高校の生徒による公民館講座が定着。小学生向けの「ミニ門松づくり」や、大人向けの「苔玉づくり」などに加え、学習成果の発表会も町民の前に実施しています。高志館高校と地域のつながりに期待しています。

春日公民館 古賀さん



YouTube



Instagram

熊谷組と産学連携協定を締結

水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせた次世代の持続可能な循環型農業「アクアポニックス」と、ゼネコンの熊谷組が発見した微細藻類の独自株培養を組み合わせた環境保全型のハイブリッド農業「藻類×アクアポニックス」のラボで、実証事業を行う同社と実習カリキュラムにおける産学連携協定を締結し、水耕栽培に関する実習を始めました。野菜苗を栽培を重ねています。



熊谷組と産学連携協定を締結

佐賀西高校

「総合的な探究の時間」を学校でのあらゆる活動に結びつけるものとして位置づけ、外部講師による講演会を実施したり、フィールドワークに基づく探究活動を推進したりして、主体的に行動できる生徒の育成に取り組んでいます。

外部講師による講演会

1年目は「日本の未来を知るそして、エネルギー問題を工学で考える」と題し、慶應義塾大学教授松尾亜紀子氏による講演を行いました。2年目は本校卒業生の江口静氏を招き、高校時代の過ごし方や起業家精神について、3年目は金沢大学教授金間大介氏による、若者の主体性やイノベーション論についての講演をいただき、生徒の視野を広げる取組を行っています。

ポスターセッション

1年秋〜2年夏にかけて、自らの興味関心に基づくテーマを設定し、グループごとにフィールドワークやアンケート調査、大学等専門機関との連携を図りながら、探究活動を行い、7月に本校体育館でポスターセッションを実施しました。2年生が一年間の探究活動の成果を、1年生や教職員に向けて発表する一方で、1年生はその内容についての質問を行い、双方向でのコミュニケーションに基づく議論が白熱しました。

探究活動発表会

ポスターセッションを経て、優秀作と認められた5グループは、発表資料を作成し、県立美術館ホールで本校生徒や近隣の中学生を前に、堂々と発表を行いました。外部から審査員を招き、発表内容やプレゼンに関する講評をいただき、相手に効果的に伝える方法について学ぶことができました。また、参加者からの質問に対して臨機応変に回答していました。



外部講師による講演会



ポスターセッション



ホームページ

伊万里高校

産学官協働の新しいまちづくりをめざして、#キセキ部では地域に学び地域の活性化に貢献する取組を行っています。

キセキトーク

地域で活躍している方の生き方や職業観、仕事のやりがいや苦労、地域との関わりなどの話を聞き、将来の進路や職業についての意識を高めることを目的に行っています。毎年2回実施し、今年で6年目になります。

伊高寺子屋

地域の小学生と本校生徒が学びを通じて交流を深めており、今年で6年目になります。カブトガニ、習字、図画工作、小物製作、夏休みの課題の5教室を開催し、本校理化学部、書道部、美術部、家庭部の生徒と教員志望の生徒たちが市内小学校10校の3年生以上の児童に教えました。高校生による指導で小学生も楽しく学び、本校生徒も教える難しさややりがいを感じています。

#キセキ部活動 出張キセキトーク

#キセキ部は令和元年度に生まれた本校生徒による活動組織で、地域の活性化を目的に、「小さくてもキセキをおこすような企画」を自分たちで発案し、実践しています。その中で今年で6年目になるのが「出張キセキトーク」であり、市内の6つの中学校をキセキ部員が訪問し、中学2年生のクラスに入り、地域の現状と課題をプレゼンして、中学生と一緒に改善策を考えています。



伊高寺子屋での宿題指導



キセキトーク



YouTube

武雄高校

武雄高校では武雄市と連携協働し、「武雄市まちづくり参画事業」として1・2年生がチームで武雄市への企画提案を行っています。この活動を本校の「総合的な探究の時間」である「探究II」に結び付け、工夫を重ねて実施しています。

武雄市出前講座

武雄市より講師を派遣いただき、本校1年生に対して「防災「観光」「多文化」「スマート農業」「子ども」の5つの分野に分かれて武雄市に関する講座を開きました。講座では、武雄市の現状や問題点、現在行われている取組等が紹介されました。生徒たちはこの講座を通して武雄市に関するインプットを行い、それに基づき自分たちの探究活動の課題設定を行いました。

地域創生講演会・ワークショップ

武雄市長の小松政氏をお招きし、「未来を拓く君たちへ」という題で、武雄市の現状や取組について1年生に対し講演していただきました。その後、生徒たちはグループに分かれて、自分の考える武雄市の魅力や問題点に関して自由に意見を出し合いました。この講演と活動を通し、生徒たちは郷土に関する考えを深め、その魅力と課題について考えることができました。

武雄市まちづくり参画事業

武雄市と連携協働し、「武雄市まちづくり参画事業」として、1・2年生がチームで武雄市の課題の解決やこれからのまちづくりに関する企画提案を行っています。6月に希望者を募り、64名の参加者が集まりました。参加者はグループに分かれてテーマ設定・計画作成を行った後、夏休みのフィールドワークと実践活動を経て、武雄市役所にて報告会を行います。



武雄市出前講座・「多文化」



武雄市まちづくり参画事業・フィールドワーク



Instagram

三養基高校

創立100年を超える地元の名称を冠した学校として「地域ボランティア型体験教育」を通じて、地域とのつながりをより強くし、課題に気づき課題解決に向けて行動できる人材の育成に取り組んでいます。

あすなるの活動

本校の「あすなる」は昭和の時代から続くボランティアを目的とした部活動です。現在では中原小学校の放課後児童クラブ「ひまわり」で週2回の学習支援と、月末に未就園児を対象としたみやぎ町のNPO子育て支援団体の「とっこ子育てCLUB」が行っている「とっこ子育て広場」のお手伝いをメインに活動しています。その他各種募金活動なども行っています。

地域を知るための講演会

「地域を学び、地域の課題を知る」ために、年に2回、地域の発展や伝統の継承のため活躍されている事業者の方などに講演をしていただいています。実際の企業活動や地域のための活動から自分たちの身近にいろいろな課題や可能性があることを知る良い機会となり、講演会で得た知見を「総合的な探究の時間」の地域課題研究のテーマ設定に生かしています。

地域の行事やイベントへの積極的参加

吹奏楽部や放送部の地域行事への参加に加え、多くの生徒が「日本語教室」「図書館おはなし会」「子ども教室」「マルシェ」などボランティアとして積極的に参加しています。

生徒にとって地域の人たちの役に立っている喜びを感じると同時に、若い人たちの援助が必要とされていることを知る機会にもなっています。



地元で活躍されている方を招いてのSSL講演会



図書館おはなし会 (読み聞かせや簡単な工作)



Instagram

唐津商業高校

学校と地域がつながり、活力と魅力を生み出す実践型ビジネス教育に取り組んでいます。生徒の主体性を尊重し、生きたビジネスについて学び、地域や地域産業の振興・活性化に貢献できる生徒を育てます。

企業と連携した商品開発

地元企業と協力して商品開発を行い、本校が運営するインターネットショッピングモール「からつ学美舎」で販売したり、地域のイベントに出店して対面販売を行うなど、地元企業の活性化のために頑張っています。

生徒たちは、商品の開発から消費者へ届けるまでの一連の過程を学び、問題解決能力や創造力を磨き、実践的なビジネス活動を経験しています。

プログラミング教育

地元の専門学校と連携して、情報処理コースの生徒を対象にプログラミング教室を実施しています。スクラッチを使ってプログラムを組み立て、パソコン上で車を自走運転させたり、ドローンを目的の場所まで飛行させるプログラムを作っています。

実際に体育館でドローンを飛行させ、プログラムを修正しながらゲーム感覚で楽しく取り組んでいます。

ハングル教室

商業科O.A.コースの選択授業として開設している韓国語の授業を中学生や保護者に体験してもらうことを目的に「Enjoy!ハングル講座」を実施しています。韓国語での挨拶や発音の仕方、韓国の食文化などを楽しく学びます。韓服の試着体験なども企画し、写真撮影などを行いました。



イベントでの販売実習



中学生対象のハングル教室



Instagram



YouTube

学校魅力化アドバイザーより

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みです。この制度を導入することにより、学校が所在している地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことができます。

活用するポイント!

1

「地域とともにある学校」づくりに向けて、まずは学校としての「特色」を見つめ直すことが求められます。「なぜ地域住民や保護者と力を合わせる必要があるのか」という「唯一無二」のこだわりをまずは見付けましょう。

2

ここでいう「地域」については、学区や市町などの行政区(エリア)で地域を限定するよりも、学校の教育方針や教育活動の範囲(テーマ)に応じて柔軟に考えていくことが大切です。

普通科・専門科を併設した学校における工夫例

〇〇高等学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

同窓会、A市教委、PTA、A市商工会、地元企業、B小学校、NPO法人、C中学校、県内大学等

各部会を開き、実効性のある運営体制を構築

小中高接続部会

小中高生の進路、地域課題解決、学力向上における地域に根差した接続を実現する。

産学官連携部会

地域振興の担い手育成に向けた実践と長期就業体験を軸とした学校設定科目(例)地域協働探究のカリキュラム開発をする。

高大接続部会

本校教育の質の向上と各教科・科目や探究学習のさらなる充実(高度化)を目指す。

鳥栖商業高校

『専門分野を生かした「課題研究」の取組』により、表現力・課題解決力・行動力の育成を目指しています。また、『全校的な情報発信の推進』により、職員及び生徒の表現力・情報発信力を磨いています。



「佐賀さいこう企画甲子園」での発表



麓小学校でのプログラミング教室



Instagram

全校的な情報発信の推進
 学校の魅力を高め、その魅力を効果的に発信することが必要です。SSLの取組の一環として広報委員を新設し、学校Instagramをいち早く開設したことで広報への意識が向上しました。職員からの情報提供も多く、毎週1〜2回更新しています。SNSだけでなく、ノベルティとしてクリアファイルを生徒が制作したり、中学校に出向いて生徒自らが説明したりする機会も増えています。

小学校プログラミング教室
 鳥栖市立麓小学校で、「プログラミング教室」を毎年実施しています。「基礎的な内容だけでなく、児童が関心を持つようレゴブロックやドローンを使う教材を自作しています。小学生は毎年楽しみにしてくれており、お礼の手紙をもらえることもあります。教える立場に立つことにより、生徒のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が向上しました。

地元の特産を利用した商品開発
 課題研究の商品企画チームは、佐賀県の特産品等を使った商品開発に取り組んでいます。みかんの皮を使った入浴剤、鳥栖のアスパラガスを使ったレシピの考案、基山のエミューの脂を原料とする乳液などがあります。商品化に至ったものもあり、高校生らしい発想と、佐賀県をPRしたい意欲が重なり、様々な商品案が生み出されています。

伊万里実業高校 農林キャンパス

地域で活躍する農業従事者を輩出するために地域・企業と連携したスマート農業教育に取り組んでいます。また、地域と連携した商品開発や木育に取り組んでいます。



子どもたち対象の木育



そば粉を使った商品開発



TikTok



YouTube

**地域食材を活用した
地産地消推進への取組**
 伊万里市炭山地区の「すみやま棚田を守る会」と協働で、そば粉を使った商品開発をしています。蕎麦の種まき〜花の観察〜収穫〜製粉〜新商品開発までの一連の流れを生徒が主体的に行い、地域の自然を守り、語り継ぐため、地域と共に取り組んでいます。

**子どもたちに木の魅力を伝える
ものづくりフェアで**
 全国ものづくり塾と本校森林環境科で「ものづくりフェア」を本校体育館で開催し、地域より100名以上の方に参加していただきました。イベントでは、「木を使ったおもちゃの製作」や「火起こしアウトドア体験」を行い、多くの子どもたちにもものづくりの楽しさや木の魅力を体験してもらいました。

最先端スマート農業視察
 生物科学科ではスマート農業の研修のために、くボタ田主丸アグリセンターの視察に行きました。GPSを搭載した田植え機やトラクターの自動運転の様子を見ることができました。また、大型ドローンによる農薬散布の実演もしていただきました。スマート農業が身近になり、農業の省力化が大きく進んでいることを実感できました。

嬉野高校

「嬉野の未来は私たちが作る!うれしの絆プロジェクト2」をテーマに、学校と地域の活性化を目指し、嬉野市と協働した活動に取り組んでいます。



吉田窯元会館を訪問



ひだまり体操の実演



Instagram

オリジナル羊羹の販売実習
 情報ビジネス系列と観光・流通系列の3年生が授業で取り組んでいるオリジナル羊羹「翡翠」「琥珀」の販売実習を行いました。実際に羊羹作りを体験したため、そのおいしさを具体的にPRでき、多くの観光客の方に購入していただきました。

嬉高ひだまりサロン
 平成23年度から多世代交流の居場所「嬉高ひだまりサロン」を設置し、高齢者や乳幼児とその保護者、高校生など、若い世代とシニア世代が気軽に立ち寄りコミュニケーションを図れる場をつくることを目的に始めました。地域の方々と一緒に、嬉高オリジナル曲「恋♡来い♡SAGA」に合わせた体操やモリツクなどのゲームを通し、楽しい時間を共有しました。

チャオシル・吉田焼窯元会館訪問
 地元の特産物を中心に理解を深めるために、うれしの茶交流館「チャオシル」を訪問しました。日本茶の栽培のみならず、淹れ方・楽しみ方を知ることができ、また吉田焼という陶磁器を通して、その製造工程や製品の価値についても理解が深まりました。

佐賀県立高校(全日制)MAP



[生徒の全国募集をしている学校]

- 有田工業高校(セラミック科、デザイン科)
- 唐津青翔高校(総合学科 全系列)

※「地域みらい留学」に参画しています。

[普通科改革を行っている学校]

- 佐賀東高校(普通科、スポーツ科)
- 唐津西高校(地域探究進学コース、学際探究進学コース)
- 鹿島高校(文理探求進学コース、未来探求進学コース)
- 伊万里高校(普通科、MIRAI進学科)※令和7年度設置

佐賀県

佐賀県教育委員会事務局 教育振興課

TEL0952-25-7424 ✉ kyouiku-shinkou@pref.saga.lg.jp

佐賀県教育委員会ホームページ ▶ [佐賀県教育委員会](#) [検索](#)

© 2024 Saga Prefecture Board of Education. All Rights Reserved.

ホームページは
こちらから



SAGA県立高校
進学ナビ

